

# 模擬問題

## 2024最終・社福国試対策

刑事司法と福祉 (58～63)、ソーシャルワークの基盤と専門職  
(64～69)、ソーシャルワークの理論と方法 (70～78)

【刑事司法と福祉】

問題 58 近年の非行や犯罪の動向に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 少年による刑法犯の検挙人員は戦後から増加傾向にある。
2. 刑法犯の認知件数は増加傾向にある。
3. 高齢者の刑法犯は、全年齢層と比べて、窃盗の構成比が高い。
4. 令和4年の窃盗の認知件数は前年より減少した。
5. 覚醒剤取締法の検挙人員は増加傾向にある。

問題 59 保護観察に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 労役場からの仮出場に際して、保護観察に付される。
2. 保護観察中に、補導援護に違反すると、不良措置をとられる場合がある。
3. 更生保護の保護観察中に、必要に応じて応急の救護と更生緊急保護が行われる場合がある。
4. 特定の犯罪的傾向を改善するための、性犯罪者処遇プログラム、薬物再乱用防止プログラム、暴力防止プログラム、飲酒運転防止プログラムは法務大臣が定める。
5. 更生緊急保護は、最大2年を超えない範囲内で行われる。

問題 60 更生緊急保護に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 更生緊急保護は、原則として1年を超えない範囲内において行うものとされている。
2. 更生緊急保護は、その対象となる者の改善更生のために必要なすべてのことを行うものとされている。
3. 更生緊急保護は、地方裁判所の長がその必要があると認めたときに限り行うものとされている。
4. 更生緊急保護は、対象者からの申出がない場合でも行う必要があるとされている。
5. 更生緊急保護は、保護観察所の長が自ら行い、または更生保護事業を営む者その他の適当な者に委託して行うものとされている。

問題 61 更生保護に関する次の記述のうち、正しいものを2つ選びなさい。

1. 地域生活定着支援センターによる支援を受けるためには、障害者手帳を申請する必要がある。
2. 保護司は、地方更生保護委員会又は保護観察所の長の指揮監督を受ける。
3. 保護司は、犯罪をした者及び非行のある少年の改善更生を助け又は犯罪の予防を図るための啓発及び宣伝の活動などを行っている。
4. 更生保護事業を営む更生保護施設に保護司は必置となっており、SSTや飲酒、覚せい剤使用の問題を改善するための処遇を行っている。
5. 精神障害者の社会復帰に向けての支援については、保護司と社会復帰調整官が協力して行っている。

問題 62 医療観察法に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

(注)「医療観察法」とは、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」のことである。

1. 鑑定入院の期間は命令が執行された日から起算して1か月を超えることはできない。
2. 指定入院医療機関の管理者は、入院医療を継続させる必要があるれば、6か月ごとに申立てを行わねばならない。
3. 指定入院医療機関の治療計画はおおむね12か月で退院できるよう医療を提供している。
4. 指定通院医療機関の通院期間は原則2年間とされている。
5. 指定通院医療機関の通院延長は3年以内の延長が認められている。

問題 63 事例を読んで、次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

〔事例〕

両親との関係が悪いA少年（17歳，男性）はその憂さをほらすためB少年と飲酒を繰り返し、そのお酒を得るためにB少年と共謀して万引きを繰り返していた。その結果、警察に捕まり家庭裁判所の審判で少年院に入所することになった。そして、今回仮退院が許されて両親の下ではなく更生保護施設に入所することになった。

1. A少年が許された仮退院は家庭裁判所が決定する。
2. A少年の保護観察のことを3号観察と言う。
3. 更生保護施設の多くは社会福祉法人により設置運営されている。
4. 特別遵守事項として「共犯者との交際を絶ち、一切接触しないこと」が付く。
5. 特別遵守事項を変更することはできない。

## 【ソーシャルワークの基盤と専門職】

問題 64 社会福祉士及び介護福祉士法に規定されている社会福祉士に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 社会福祉士は5年ごとに更新のための研修を受けなければならない。
2. 社会福祉士には業務独占の領域はいかなる場合もみられない。
3. 社会福祉士は所属組織の信用を失墜する行為をしてはならない。
4. 社会福祉士は資格取得後には広く世間にその資格の有用性を訴える活動をしなければならない。
5. 社会福祉士にはその職務を辞した後も秘密保持義務が課せられる。

問題 65 ソーシャルワークの形成過程に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. 19世紀後半の社会調査により、貧困は社会構造に生み出されるのではなく、個人の怠惰によってもたらされることが明らかになった。
2. セツルメントの活動を最初に組織的に行ったバーネット (Barnett, S.) は、友愛訪問と呼ばれる個別の訪問活動を展開した。
3. キリスト教青年会 (YMCA) は祈祷会や聖書研究会の活動を行うことを目的に設立され、のちのケースワークの源流の一つとなった。
4. マイルズ (Miles, A.) は、人間の心理的な側面に傾倒しているケースワークに対し、社会環境への視点を取り戻すべきとして、「ケースワークは死んだ」と主張した。
5. 片山潜は、トインビー (Toynbee, A.) から影響を受け、1897年に神田三崎町にキングスレー・ホールを設立した。

問題 66 相談援助の理念に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

1. 利用者本位とは、利用者の立場に立ち、利用者の意思を最大限尊重することをいう。
2. ノーマライゼーションの理念が具現化してきたのは1850年代のイギリスにおいてといわれている。
3. 社会的包摂において、人々の「つながり」の再構築は重視されない。
4. ケースアドボカシーは、マクロレベルのアドボカシーで、政策、実践、法律などを変えさせるようなはたらきかけに代表される活動のことである。
5. スtrenghs・パースペクティブは、クライアントの抱える弱さに着目し、それを強化する。

問題 67 アドボカシーに関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

1. リーガルアドボカシーとは、クライアントが自らの権利を主張していく活動である。
2. システムアドボカシーとは、1人のクライアントの権利を守る活動である。
3. 市民アドボカシーとは、地方自治体が行うアドボカシーである。
4. コーズアドボカシーとは、同じような状況におかれている人たちの権利を守るための活動である。
5. セルフアドボカシーとは、弁護士などが法的な手段を用いてクライアントの権利を守る活動である。

問題 68 セツルメント運動に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選びなさい。

1. セツルメントの3つのRとは、「住み込み (residence)」「調査 (research)」「届ける (reach)」である。
2. セツルメント運動を最初に組織的に行ったのは、アメリカのジェーン・アダムズ (Addams, J.) である。
3. セツルメント運動とは、知識や技術をもつものがスラム街に赴き、間接的な支援をすることである。
4. トインビー・ホールでは、第一に行う事業を社会調査とそれに基づく社会改良の世論喚起とした。
5. ジェーン・アダムズ (Addams, J.) は、ロンドンで見学したトインビー・ホールに影響を受け、1889年にハル・ハウスを設立した。

問題 69 「ソーシャルワークのグローバル定義」(2014年)について、正しいものを2つ選びなさい。

1. ソーシャルワークは欧米で始まったものであるため、欧米以外の国は当てはまらない。
2. ソーシャルワークは人々やさまざまな構造に働きかけるものである。
3. 多様性の尊重とは、人種の尊重だけを指している。
4. ソーシャルワークは実践であり、学問とはみなされない。
5. 解放とは、搾取の対象や抑圧された状態から解放することである。

## 【ソーシャルワークの理論と方法】

- 問題 70 ソーシャルワークの特性について、システム理論の視点からなされた次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。
1. 根拠をもった支援を行うため、ソーシャルワーカー側からみたクライアントの客観的環境を重視する。
  2. 個人、集団、家族、地域といった分野を特定した方法論によって実践される。
  3. 人と環境を切り離して、それぞれに対して介入する。
  4. 環境とは、一方的に人に援助資源を与えるものとして捉える。
  5. ソーシャルワーク実践は、人とその環境の境界に立った実践である。
- 問題 71 ソーシャルワークにおけるプランニングに関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。
1. 受理面接の結果に基づいて、支援計画を立てる。
  2. 社会資源の活用を検討した後に、クライアント自身もっている力を活用することを検討する。
  3. 多職種と協働する場合は、支援計画についてチーム全体の合意を得ることが必要である。
  4. クライアントのストレングスを活用した支援目標を設定する。
  5. 柔軟に対応するために、具体的なサービスの種類は決定しない。
- 問題 72 相談援助における支援の終結に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。
1. クライアントが今後課題を抱える可能性を鑑みて、永続的に支援を継続することが望ましい。
  2. 相談援助が終結した場合、福祉関連のサービスも終了する。
  3. クライアントから支援を中断した場合は、いかなる場合においても支援は終結とみなす。
  4. 支援の終結に対してクライアントが悲しみを感ずる場合は、支援を継続する。
  5. 支援の終結段階では、クライアントとソーシャルワーカーとが支援過程を振り返り、評価する。
- 問題 73 ソーシャルワークにおけるアセスメントに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。
1. アセスメントの起源は、リッチモンド (Richmond, M. E.) の『社会診断』にある。
  2. 支援プロセスの初期段階で実施されて完了する。
  3. 十分な情報を収集するために、用意した質問を順番に一つひとつたずねる。
  4. 念のために、問題解決に不必要とみなされる情報についても聞き取りを行う。
  5. クライアントが現状をどのように考えているのかといったバイオの情報収集は必須である。
- 問題 74 相談援助における課題中心アプローチに関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。
1. パールマン (Perlman, H. H.) が、心理社会的アプローチと機能的アプローチの折衷アプローチとして構築した。
  2. クライアント自身が認識し、自らの努力で解決できる可能性をもった具体的な生活諸課題が対象となる。
  3. 短期的な時間の中で、計画的に進めていく。
  4. 過去に戻り、問題の原因を探ることによって解決の糸口を見いだす。
  5. 回避できない危機に対して早期に介入することが特徴である。

問題 75 ソーシャルワークの記録に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

1. 記録の形式を統一するために、1人のクライアントに関する記録は1人のソーシャルワーカーが記録する。
2. クライアントから記録の開示の要求があった場合は、いかなる場合においても、クライアントに記録を開示する。
3. クライアントの氏名、住所、家族構成、病名・障害名などの基本情報を記入するために、モニタリング記録書を用いる。
4. クライアントを取り巻く環境をアセスメントするために、クライアントと環境の関係性を図式化するエコマップを作成する。
5. 会話すべてをそのまま記録する逐語録は、様子を詳しく知ることが出来るため、日常の支援活動の記録に適している。

問題 76 グループワークに関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

1. メンバー同士の間形成される相互作用関係を活用する。
2. グループワークの源流は、セツルメント運動や青少年団体活動にある。
3. 最終的な目的は、プログラム活動を成功させることである。
4. メンバーが主体的に活動できるように、制限を設けない。
5. メンバー同士に葛藤が起こらないように留意する。

問題 77 ソーシャルワークにおけるスーパービジョンに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. スーパーバイザーがスーパーバイジーの代わりにアセスメントを行うことによって、スーパーバイジーの成長を促す。
2. 職場の上司でないスーパーバイザーは、教育的機能を担えない。
3. 適切なスーパービジョンを行うことにより、バーンアウトを引き起こすことができる。
4. スーパービジョンが適切に実施されることにより、組織の理念や方針に沿って、できる限り質の良いサービスを提供することができる。
5. パラレルプロセスを保つことにより、スーパービジョンとクライアントの支援過程を揃えることができる。

問題 78 エンパワメントアプローチに関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. クライアント自らが、おかれている否定的な抑圧状況を認識し、潜在能力に気づき、その能力を高め、抱える問題・課題に対処していくことと、抑圧状況をつくりだしている構造要因を変革することに焦点が置かれる。
2. 自我に囚われた状態から抜け出すために、他者とのつながりを形成し、疎外から解放されることに焦点を当てる。
3. 認知のゆがみを是正し、現実的かつ多様な認知反応を獲得することに焦点を当てる。
4. クライアントが語るこれまでのストーリーを傾聴し、問題の外在化を図り、これまでの出来事に新しい意味を付与して新たなストーリーを描き出していく。
5. クライアントがこれからどうなりたいかのイメージに焦点を当て、問題が解決した状態を実現することによりクライアントの社会的機能を高める。